

## 「怒り」やストレスにかかわる神経生物学的基盤の探索

高橋 阿貴 先生

筑波大学人間系 准教授



2022年12月23日 17:00

@杉谷キャンパス講義実習棟 203室

悪口を言われたり、危険運転をされるなど、他者から挑発を受けたと感じると、私たちは苛立ったり攻撃的な気持ちになります。このような社会的挑発が攻撃行動を増加させるという現象は、魚からげっ歯類まで、さまざまな動物において観察されています。

私たちはこれまで、社会的挑発により攻撃行動が増加する神経メカニズムとして、脳内セロトニン神経系の神経核である背側縫線核に着目した解析を行ってきており、とくに不快情動やストレスに関わる外側手綱核からの入力、攻撃行動の昂進にかかわることを明らかにしました。さらに、この領域に炎症性サイトカインが作用することで、攻撃行動の個体差にも影響を与えていることが明らかになってきました。本セミナーでは、雄マウスの攻撃行動が過剰になる神経生物学的なメカニズムについて、私たちの最近の研究成果を紹介させていただきます。さらに、これまで攻撃行動をほとんど示さないと考えられていた雌マウスにおいても、攻撃行動を研究するための新しいモデルが近年提唱されてきており、性差研究への可能性についても考察したいと思います。

Takahashi et al. (2022) Lateral habenula glutamatergic neurons projecting to the dorsal raphe nucleus promote aggressive arousal in mice. *Nature Communications*. 13:4039.

Takahashi et al. (2022) Neuromodulatory effect of interleukin 1 $\beta$  in the dorsal raphe nucleus on individual differences in aggression. *Molecular Psychiatry*. 27(5):2563-2579.

問い合わせ：西丸広史（システム情動科学）  
nishimar@med.u-toyama.ac.jp



高橋先生のResearchmap